

第1章 伊賀市地域公共交通計画の評価

1-1 本章の着眼点まとめ

本章では、前計画となる伊賀市地域公共交通計画における数値目標の達成状況や施策の進捗状況を整理します。これより、進捗した施策は継続的に取組を進めていくこと、進捗がなかった施策は改善や見直しを行うなど、次期計画に活かしていきます。

■伊賀市地域公共交通計画の評価まとめ

基本方針1：市民・利用者の生活の質を高める地域公共交通ネットワークの形成

- 主に以下の施策を推進しました。
 - ・鉄道事業再構築実施計画の中間評価
 - ・パークアンドライド駐車場の利用促進
 - ・既存バス路線に対する利用状況に応じた路線の再編
 - ・島ヶ原地域でのデマンド運行の実証運行を開始するとともに、導入検討する地域との協議
 - ・神戸地区における地域運行バスの運行のサポートを行なうとともに、地域運行バス制度の説明を希望する地域への説明会の実施
- 各施策を実施していますが、コロナウイルスの影響もあり、バスや鉄道の利用者は減少しており、数値目標は未達成となっております。

基本方針2：誰もが利用しやすく、使いたくなるような地域公共交通サービスの充実

- 主に以下の施策を推進しました。
 - ・二次交通の充実により関西本線の利用増に繋がるかを検証するため、新堂駅から名阪国道御代インターチェンジへの実証バスを運行
 - ・伊賀線の利用促進のため、旅行商品の開発や、情報発信、パンフレットの配布
 - ・JR関西本線島ヶ原駅での乗り継ぎを考慮した、島ヶ原ぐるり号の運行ダイヤの改善
 - ・教育委員会と連携し、小中学生の通学に際し、いがまち・大山田行政サービス巡回車及び青
- 一方で、各施策を実施していますが、地域公共交通を利用したお出かけの数値目標は未達成となっており、利用者増加に向けた取組が重要となります。

基本方針3：一緒に考え、次世代へつないでいく持続可能な仕組みづくり

- 主に以下の施策を推進しました。
 - ・伊賀鉄道の魅力向上、利用促進イベント電車の乗り方教室等の実施
 - ・伊賀鉄道公式 SNS アカウントによる情報発信
 - ・コミュニティバス「にんまる」の音声アナウンスを沿線小学生の声に変更
 - ・従来の伊賀鉄道分に加え、伊賀市民で近鉄・JR・バス等の公共交通機関分も対象に、各通学定期券購入費用の1/2にあたる金額を助成
 - ・2024年8/16～18 第13回全国高校生地方鉄道交流会 開催
- コロナウイルスの影響で、地域公共交通への市民の参画度は大幅に減少したと考えられますが、コロナ後も減少しているため、参画度向上に向けた取組が必要となります。
- 一方で、地域公共交通への市民の満足度はコロナ後に回復傾向にあり、目標を達成しました。そのため、公共交通に対する不満事項への改善が見られる結果となりました。

1-2 現計画の概要

「伊賀市地域公共交通計画」は、伊賀市では、平成 19 年度に「伊賀市交通計画」を策定し、以降、鉄道やバスの活性化、利用促進に取り組んできました。平成 27 年には「伊賀市地域公共交通網形成計画」を策定し、令和 2 年度までを計画期間として、地域に根ざした持続可能な交通体系の構築を目指してきました。

しかし、計画期間の満了や、関連法（地域公共交通の活性化及び再生に関する法律）の改正、伊賀鉄道の公有民営化、市役所本庁舎の移転、新駅開業、利用者数の減少、運転者不足、コロナ禍など、環境の変化を受け、現計画を策定しました。

伊賀市地域公共交通計画（令和 3 年 3 月策定）

■計画期間

令和 3 年度～令和 7 年度

■基本理念

暮らしに寄り添い ひと・地域が輝く ネットワークづくり
～みんなで磨きあげ 使って 支える 伊賀市の地域公共交通～

■基本方針

- ・ 市民・利用者の生活の質を高める地域公共交通ネットワークの形成
- ・ 誰もが利用しやすく、使いたくなるような地域公共交通サービスの充実
- ・ 一緒に考え、次世代へつないでいく持続可能な仕組みづくり

【基本理念】

暮らしに寄り添い ひと・地域が輝く ネットワークづくり
～みんなで磨きあげ 使って 支える 伊賀市の地域公共交通～

【課題整理の視点】

視点1 都市を支える
地域公共交通体系

視点2 利用しやすい
地域公共交通サービス

視点3 地域公共交通を根付かせていく
地域協働・体制づくり

【基本方針】

基本方針 1：市民・利用者の生活の質を高める
地域公共交通ネットワークの形成

基本方針 2：誰もが利用しやすく、
使いたくなるような
地域公共交通サービスの充実

基本方針 3：一緒に考え、次世代へつないでいく
持続可能な仕組みづくり

（出典：伊賀市地域公共交通計画（令和 3 年 3 月策定））

図 1-1 現計画における課題の支店と基本理念・基本方針の関係性

1-3 事業の進捗状況

現計画では、3つの基本方針に基づき、目標が設定されており、その目標を達成するための実施事業を推進してきた。「目標を達成するための実施事業」は、複数の基本方針や目標にまたがる複合的な効果が整理されている。今回の評価では、目標に直接関係する事業を整理します。

表 1.1 伊賀市地域公共交通計画の事業の取組事例（抜粋）

基本方針 1	市民・利用者の生活の質を高める地域公共交通ネットワークの形成
施策の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道事業再構築実施計画の中間評価 ・パークアンドライド駐車場の利用促進 ・既存バス路線対する利用状況に応じた路線の再編 ・島ヶ原地域でのデマンド運行の実証運行を開始するとともに、導入検討する地域との協議 ・神戸地区における地域運行バスの運行のサポートを行なうとともに、地域運行バス制度の説明を希望する地域への説明会の実施
基本方針 2	誰もが利用しやすく、使いたくなるような地域公共交通サービスの充実
施策の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・二次交通の充実により関西本線の利用増に繋がるかを検証するため、新堂駅から名阪国道御代インターチェンジへの実証バスを運行 ・伊賀線の利用促進のため、旅行商品の開発や、情報発信、パンフレットの配布 ・JR関西本線島ヶ原駅での乗り継ぎを考慮した、島ヶ原ぐるり号の運行ダイヤの改善 ・伊賀線、近鉄、JR関西本線、草津線の乗り継ぎ及びコミュニティバス「にんまる」のダイヤがわかる携帯型時刻表の作成・配布 ・教育委員会と連携し、小中学生の通学に際し、いがまち・大山田行政サービス巡回車及び青山行政バスへの混乗を実施 ・関西 Maas 協議会に登録（準会員）（令和5年9月5日 スマホアプリ「KANSAI Maas」リリース済。アプリで伊賀の名所等の検索も可能）
基本方針 3	一緒に考え、次世代へつないでいく持続可能な仕組みづくり
施策の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・伊賀鉄道の魅力向上、利用促進イベントの実施 ・伊賀鉄道公式 SNS アカウントによる情報発信 ・線路の枕木やつり革などのオーナーを募集し、地元のマイルール意識を醸成 ・電車の乗り方教室：12回実施 ・コミュニティバス「にんまる」の音声アナウンスを沿線小学生の声に変更 ・従来の伊賀鉄道分に加え、c 近鉄・JR・バス等他の公共交通機関分も対象に、各通学定期券購入費用の1/2にあたる金額を助成 ・令和6年8月16日～18日 第13回全国高校生地方鉄道交流会 開催 ・運転手の人数や配置等、現状に配慮したバスの運行により、運用の最適化を検討

(1) 基本方針1に関連する事業

事業No.	施策内容	取組実績（抜粋）	課題及び今後の方向性
01	伊賀鉄道の持続的な事業推進	<ul style="list-style-type: none"> 地域公共交通活性化再生協議会等の機会に関係機関と協議を進め、令和4年2月に鉄道事業再構築実施計画中間評価報告書を完成させた。 	<ul style="list-style-type: none"> 伊賀線次期鉄道事業再構築実施計画策定に向けた基礎調査（令和6年度実施）を基に、伊賀線の継続的な運営のため、次期鉄道事業再構築実施計画を策定していく必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> 伊賀鉄道運営費等補助金により伊賀鉄道㈱の経営安定化に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「鉄道事業再構築実施計画中間報告書」に基づき、安全運行と経営改善に努める。
		<ul style="list-style-type: none"> 第二種鉄道事業者である伊賀鉄道㈱と「伊賀線施設保守管理協定」を締結し、適正な管理を行った。 国庫及び県補助事業並びに市単事業について協定書を締結し、計画に基づき施行した。 毎月、保守会議を開催し、情報の共有を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 「鉄道事業再構築実施計画中間報告書」に基づき、安全運行と経営改善に努める。
02	鉄道駅の結節機能の向上	<ul style="list-style-type: none"> 市部駅、丸山駅、比土駅の駐車場の周知を図るとともに、草刈り等の保守管理を行った。 ギャラリー列車の園児保護者向けの通知文書でパークアンドライド用駐車場を紹介し、利用を働きかけた。 市部～ゆめが丘の通勤バス実証運行に向け、駅乗降者数調査と企業ヒアリングを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 伊賀線の利用促進を図るため引き続き、整備に向けた検討を行う必要がある。 また、沿線の駐車場・駐輪場を活用しながら、駅の結節機能の向上を図る。
03	高速バス路線の維持	<ul style="list-style-type: none"> 高速バスの時刻表を市役所などの集客施設に設置し、情報発信を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 高速バス路線は、コロナ禍を受け、減便、縮小の傾向にあるが、状況を見据えながら、利用促進を進める。
04	既存バス路線の改善	<ul style="list-style-type: none"> いがまち行政サービス巡回車に、「オークワ伊賀新堂店」のバス停留所を追加した運行ルートや時刻の変更に向け、取組を行った。（令和7年4月1日改正） 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も利用状況を確認しながら、引き続き必要な改善策を検討していく。
		<ul style="list-style-type: none"> 令和6年10月1日から、準基幹バスの「諏訪・予野線」の「治田西口」から「金坪」間を、山添村民バスに移行し、路線の改善を図った。 令和6年11月1日から、準基幹バスの「西山・島ヶ原線」の「中矢」から「やぶっちゃん」間を、島ヶ原ぐるり号の定時定路線に移行し、路線の改善を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も利用状況を確認しながら、引き続き必要な改善策を検討していく。
05	地域の実情に応じた交通手段の検討	<ul style="list-style-type: none"> 地域や関係機関と協議を行い、令和5年8月から島ヶ原地域でデマンド運行の実証運行を開始した。また、令和6年11月1日から行き先に「上野市駅」を追加したルート変更や時刻の変更を行い、実証運行を実施した。 他地域において、島ヶ原ぐるり号の紹介を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 実証運行の利用状況等を見ながら検証を進め、他地域への展開についても検討していく。
		<ul style="list-style-type: none"> 地域運行バス制度の説明を希望する地区へ出向き、住民自治協議会役員等へガイドラインの説明や事例紹介を行うとともに、導入を検討している地域からの相談に対応し、関係機関への確認等を行った。 神戸地区の継続的な運行に向けて、財政支援やサポートを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> モデル地区（神戸地区）の運行継続に向けて、市として引き続きサポートを進めていくとともに、導入検討いただける地域については、モデル地区の具体的な取組事例等を示しながら、協議を進めていく。
06	地域拠点における乗継環境の改善	<ul style="list-style-type: none"> 伊賀支所移転に伴い、いがまち行政サービス巡回車のバス停留所名を変更し、新しい伊賀支所前に、いがまち及び阿山行政サービス巡 	<ul style="list-style-type: none"> 利用状況を確認しながら、引き続き必要な改善策を検討していく。

		<p>回車、廃止代替バス柘植線のバス停を集約し、環境改善を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いがまち・阿山・大山田・島ヶ原行政サービス巡回車の時刻表示について、劣化した案内表示の取り換えを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況を確認しながら、引き続き必要な改善策を検討していく。
07	隣接市町村への路線網の創出検討	<ul style="list-style-type: none"> ・山添村コミュニティバスの運行ルートの変更について、山添村と調整を図り、令和6年10月1日から運行ルートの変更を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況を検証しながら、定住自立圏内の移動需要を支えるにあたっての連携策を模索していく。

(2) 基本方針2に関連する事業

事業No.	施策内容	取組実績（抜粋）	課題及び今後の方向性
08	JR 関西本線、草津線および近鉄大阪線のサービス改善	<ul style="list-style-type: none"> ・関係自治体や関係促進団体と連携し、JR西日本に対し、運行本数の維持を重点項目として加茂～亀山間の電化（加茂～柘植間の段階的早期着手）や草津線の運行本数改善について要望を行った。 ・JR東海に対し、名古屋都市圏からのイベント列車や臨時直通列車の運行、JR西日本や沿線自治体等との連携強化による広告宣伝等積極的な取組の実施等について要望を行った。 ・関西本線沿線ウォーキングを年5回実施した。 ・関西本線木津亀山間活性化同盟会と滋賀県草津線複線化促進期成同盟会と連携して制作したプロモーションポスターを関西圏の主要駅に掲出し誘客を図った。 ・臨時直通列車の実証運行の際に市内観光団体等と連携し、来訪者へのおもてなしを行った。 ・二次交通の充実により関西本線の利用増に繋がるかを検証するため、新堂駅から名阪国道御代インターチェンジへの実証バスを運行した。 ・草津線の活性化を図るため、フォトコンテストを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪・関西万博の開催やインバウンド拡大の好機を捉え、関西方面からの誘客・利用促進に向けた取組を展開していく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・近鉄大阪線について、運行本数の維持や伊賀線との接続改善等、利便性確保のため、近鉄(株)と優良な関係を続けており、特急列車の現状本数の維持など便数確保に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況を確認しながら、引き続き必要な連携協力を検討していく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・柘植駅、新堂駅、佐那具駅、島ヶ原駅について、沿線地域と協議を行いながら、各駅の運営継続に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況を確認しながら、今後も沿線地域と連携して、各駅の運営を継続していく。
09	伊賀鉄道の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・忍者パック実績（2,730名） ・その他ツアー団体（1,689名） ・JR西日本・近鉄と連携した旅行商品の造成「(ICOCAでGO) 京都・伊賀 お茶と忍者の里 タイムトラベルパス」ほか ・近鉄 YouTube「本日、旅口ケで不在です」伊賀取材 ・近鉄 GHD 台北支社による伊賀市内取材（台湾の人気家族ブロガーによる SNS 発信） 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もさらなる集客のため、乗ること自体を楽しめる魅力のある列車づくりとして、車内での楽しみ方やイベントの企画について検討のほか、関係他社との連携にも引き続き取り組んでいく。

		<ul style="list-style-type: none"> パンフレット「伊賀鉄道ええとこガイド」を1,000部増刷し、各種イベントで配布・配架（配布先例） 各地のショッピングモールで行われる三重県フェア 関西内外で行われる鉄道イベント 関西本線実証列車運行 市他課が関係する諸イベントに提供・配布依頼 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民だけでなく、圏域外の方に対してもPR活動を行うことができた。今後も機会を捉えてマップ等の作成を進めていく。また「伊賀鉄道ええとこガイド」の改訂を検討する。
		<ul style="list-style-type: none"> 子供に対するマイレール意識の醸成に向けて、伊賀鉄道の利用促進補助金制度についての情報を令和6年5月に個別の学校、園に対し、メールもしくは郵送にて送付した。 延べ21団体（利用者605人）に対して、50,324円の補助を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、同線の利用促進及びマイレール意識の醸成の観点から、より使いやすい補助制度への変更と積極的なPRを行っていく。
10	乗り継ぎしやすいダイヤ設定と周知	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年11月1日から、島ヶ原ぐるり号の運行ダイヤを、JR関西本線島ヶ原駅での乗り継ぎを考慮したダイヤに改善した。 伊賀線、近鉄、JR関西本線、草津線の乗り継ぎ及びコミュニティバス「にんまる」のダイヤがわかる携帯型時刻表を作成し、駅、市庁舎、地区市民センターなどで配布した。（作成部数：2,900部） 冊子での配布に加え、市ホームページでの公開を行った。 表紙に伊賀市で開催された第13回全国高校生地方鉄道交流会写真コンテスト伊賀市長賞作品を採用した。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集に努めるとともに、利用状況を確認しながら、引き続き必要な改善策を検討していく。 引き続き情報収集に努めながら、携帯型時刻表等、必要な情報提供を行っていく。
11	施設と連携したバス待合い環境の改善	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティバス「にんまる」のダイヤや路線がわかる携帯型時刻表を作成し、駅、市庁舎、地区市民センターなどに設置した。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、携帯型時刻表等を作成し、必要な情報提供を行っていく
12	わかりやすい情報発信と情報活用	<ul style="list-style-type: none"> 携帯型時刻表を2,900部作成（「施策番号22」に同じ）。また、冊子での配布に加え、市ホームページでも公開し遠方の人などへの情報提供を行っている。 海外からの観光客への宣伝強化を目的として伊賀鉄道ホームページの多言語化を行っている。 X（旧Twitter）の伊賀鉄道公式アカウントやホームページでの迅速な運行情報の提供を行っている。 「南海トラフ地震臨時情報『巨大地震注意』」への対応をHP、Xで発信。 バスの運休や迂回が生じる際には、市ホームページで情報提供を行った。 上野市駅の行先案内表示器のデジタル化により、多言語表記、音声案内、テロップによる情報提供を実施中。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用状況を確認しながら、必要な改善策を引き続き検討していくとともに、既存の物については、現状と異なった情報を提供することのないよう点検を行っていく。
		<ul style="list-style-type: none"> 標準的なバス情報フォーマット（GTFS-JP）データの整備を進め、令和3年5月よりGoogle等地図検索サービスで市内の公共交通の時刻や経路を検索できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> データの整備により検索が便利になったため、今後はそのことを活用した利用促進策を検討していく。
13	利用しやすい運賃制度の構築	<p>【伊賀鉄道】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1日フリー乗車券発売枚数 紙券 7,161枚 同上 デジタル総計601枚（おまけつき含む） 	<ul style="list-style-type: none"> 利用状況を確認しながら、必要な改善策を検討していく。 収益増につながる付加価値の検討を行っていく。

		<ul style="list-style-type: none"> ・エコロジーパス発売枚数 2枚 ・沿線の飲食店やイベントと連携した1日フリー乗車券「RYDE PASS」を発売中。 ・謎解き探訪アプリ「たまむすび」発売枚数（デジタル1日フリー乗車券付き）76枚 ・スマホ定期券「バスもり！」発売枚数 1,068枚 ・ICOCA 定期券 発売枚数 1,584枚 ・上野市駅窓口にクレジット決済導入（ICOCA 定期購入時） <p>【青山行政バス】 令和6年2月1日より交通系ICカードの利用が開始している。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> ・交通事業者の制度や他市の事例等の研究を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事業者の制度や他市の事例等も研究しつつ、運転免許返納者の公共交通機関利用への転換による利用促進及び路線の持続性の観点から制度検討を進めていく。
14	公共交通とスクールバスの連携	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会と連携し、小中学生の通学に際し、いがまち・大山田行政サービス巡回車及び青山行政バスへの混乗を実施している。 ・島ヶ原地域で新しい運行形態の導入検討を進めるにあたり、地域や教育委員会と連携しながら検討を行い、スクールバスと公共交通との役割分担を明確にして、令和5年8月から新しい運行体系での運行を開始している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会や運行事業者と連携し、沿線地域、学校、保護者等と協議を進めながら、より効率的な運行体系を検討していく。 ・教育委員会や運行事業者と連携し、沿線地域、学校、保護者等と協議を進めながら、より効率的な運行体系を検討していく。
15	安全・安心・快適な環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・上野市駅トイレのバリアフリー化及び洋式化を行った。（令和6年12月10日供用開始） ・伊賀鉄道車両に車内防犯カメラを設置している。 ・市街地東部地域トイレ（広小路駅前）清掃業務委託 ・駅前駐輪場等の管理業務委託、放置自転車等の調査・撤去 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用状況を確認しながら、必要な改善策を検討していく。 ・状況を確認しながら、必要な改善策を検討していく。
16	タクシーのサービス充実・利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ライドシェアの導入について、先進市町の調査・研究を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、新たなサービスについて他市の先進事例等の調査・研究を行う。
17	伊賀鉄道の二次交通の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・伊賀鉄道ホームページやSNSを通じて周知に努めている。 ・サイクルトレインを実施している。 ・近鉄サイクルトレイン「Ketta」臨時列車の伊賀神戸駅停車 ・10/21サイクルトレイン区間延長実施（比土～伊賀神戸） 	<ul style="list-style-type: none"> ・営業終了したレンタサイクルについて他駅等での再開を検討する。
18	新たなモビリティサービスの積極導入	<ul style="list-style-type: none"> ・他地域の自動運転車両等について、試乗会に参加し情報収集を行った。 ・関西 Maas 協議会に登録（準会員）（令和5年9月5日 スマホアプリ「KANSAI MaaS」リリース済。アプリで伊賀の名所等の検索も可能） ・RYDE PASS アプリでの1日フリー乗車券（市内の商店等とコラボしたおまけサービス付き企画乗車券）での利用促進も継続実施中。 	<ul style="list-style-type: none"> ・状況を確認しながら、導入についての調査・研究を行う。 ・乗車券からさらに他のサービスにつながる展開を考えていくとともに、収益増につながる付加価値の検討を行っていく。

(3) 基本方針3に関連する事業

事業 No.	施策内容	取組実績	課題及び今後の方向性
19	地域・住民と連携した伊賀鉄道の支援・魅力づくりの継続・強化	<ul style="list-style-type: none"> ・伊賀鉄道の利用促進イベントの実施 ○5/3 伊賀線まつり・バイク「Ninja」とのコラボイベント ○6/9 第12回全国高校生地方鉄道交流会事前学習会 ○7/21 花火鑑賞列車 ○8/16～18 第13回全国高校生地方鉄道交流会 ○9/16 お月見列車運行 ○9/30～10/19、11/25～12/14 芭蕉祭俳句列車 ○10/21 いがてつマルシェ開催 ○1/25 甘いもんとれいん ○2/16・22 JR関西本線臨時列車の旅車庫見学プラン ほか団体貸切列車等運転 ・伊賀鉄道の魅力向上に向けた、ギャラリー列車を運行した。(18回運行、延べ23団体、582枚掲示) ・オリジナルヘッドマーク掲出、グッズ通信販売、車内FREE-WiFi設置、駅記念スタンプ設置。 ・イベント物販 ○4/20,21 近鉄鉄道まつり in 塩浜 ○4/29 養老鉄道まつり ○5/3 伊賀線まつり2024 ※近鉄・JRとのコラボ商品発売 ○8/10,11 大和鉄道まつり ○10/6 国際交流フェスタ ○10/12,13 芭蕉路バル ○10/13 金山鉄道まつり ○10/19 いがてつマルシェ ○10/20 きんてつ鉄道まつり in 五位堂 ○11/30,12/1 万博鉄道まつり2024 with 観光 EXPO ○12/22 近鉄・伊賀鉄道共催ハイキング ・タイアップトレイン等 ○6/15～7/7 アロマ&フラワートレイン(メナード青山) ○7/3～ 上野市駅七夕飾り(白鳳幼稚園) ○8/1～8/30 伊賀焼風鈴列車 ○10/7～11/25 セージトレイン(メナード青山リゾート) ・伊賀鉄道公式 SNS アカウントにより情報発信を行った。 ・SNS フォロワー数 X(旧 Twitter): 9,698人 Instagram: 2,852人 Facebook: 1,342人 ・線路の枕木やつり革などのオーナーを募集し、地元のマイルール意識を醸成するとともに、より幅広い支援を仰いだ。 ○まくら木オーナー 152口 ○つり革オーナー 88口 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に実施しているイベントは既に定着しており、多くの参加者に好評をいただいている。さらなる集客を目指し、列車に乗ること自体を楽しめる魅力のあるイベント列車づくりのため、車内での楽しみ方の工夫や、芭蕉祭、上野天神祭等、沿線行事に合わせたイベント列車の運行などの連携策を検討しながら、引き続き取り組んでいく。 ・収益増につながる多様な付加価値のあるグッズの企画・販売を引き続き行っていくため、新たな素材に広くアンテナを張り、作成販売等を行う。 ・また、伊賀市ふるさと納税返礼品に伊賀鉄道グッズを登録することを検討していく。 ・様々な媒体を活用して上手に伊賀鉄道のPRを図り、さらなる誘客と増収に努める。 ・伊賀線を永続的に維持していくためには、鉄道事業者の取組だけでなく、市全体で考えていくことが重要であることから、沿線の地域や学校、企業等の主体

			<ul style="list-style-type: none"> 的な取組を促し、活用の意向を探っていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・茅町、四十九、丸山、新居の4駅でネーミングライツによる副駅名掲出を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伊賀線を永続的に維持していくためには、鉄道事業者の取組だけでなく、市全体で考えていくことが重要であることから、沿線の地域や学校、企業等の主体的な取組を促し、活用の意向を探っていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・伊賀鉄道友の会会員数 ○令和6年度末現在 一般会員：95口、学生会員：3口、法人会員：17口、ボランティア会員：3口、計118口 ・電車の乗り方教室 ○12回実施 234人参加（10保育園・幼稚園 204人、小学生伊賀線教室 30人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・伊賀線を永続的に維持していくためには、鉄道事業者の取組だけでなく、市全体で考えていくことが重要であることから、沿線の地域や学校、企業等の主体的な取組を促し、活用の意向を探っていく。
20	地域・住民と連携したバス交通の支援・魅力づくりの継続・強化	<ul style="list-style-type: none"> ・他市町の行政バス等の事例について情報収集を行っている。 ・令和6年4月1日から、コミュニティバス「にんまる」の音声アナウンスを沿線小学生の声に変更した。 ・伊賀線まつりや伊賀市国際交流フェスタにて、コミュニティバス「にんまる」車両の展示やペーパークラフトの配布を行った。 ・問い合わせをいただいた方へ、携帯型時刻表の提供や、利用モデルダイヤの作成・提供を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他市町の事例等も研究しながら、当市にあった制度設計を行っている。 ・バスへの理解を深めるため、今後も関係機関の協働による実施を働きかけていく。 ・今後は、地域のまちづくりやイベント等で中心となる自治組織の代表等が委員を務める地域部会等の場で情報共有し、取組のテーマのひとつとしていただく等、地域との連携を深めながら具体的な検討を進めていく。
21	高校生の通学交通を対象としたモビリティマネジメントの展開	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の伊賀鉄道分に加え、伊賀市民で近鉄・JR・バス等他の公共交通機関分も対象に、各通学定期券購入費用の1/2にあたる金額を助成した。 ・伊賀鉄道 延べ1,176件、892人、25,659,400円 ・公共交通 延べ1,549件、1,193人、47,353,700円 ・4月に市内および名張市内の高校や高等専門学校等を訪問して、通学定期券購入費助成制度の周知活動を実施した。 ・1月～2月にはメール配信等による再度の周知依頼を行った。 ・令和6年8月16日～18日 第13回全国高校生地方鉄道交流会 開催 ・10月20日同上 ヘッドマーク授与式 ・関西本線臨時直通列車の実証運行に伴う来訪者のおもてなしの一環で伊賀上野駅にある駅ピアノを活用した演奏会を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域と連携しながら、学生へのモビリティマネジメントを進めていく。また、助成制度等については、今後も利用促進及びマイルール意識醸成の観点から、積極的なPRを行っている。 ・連携できる方法を模索しながら、一緒になった取組を進めていく。
22	市内事業所への通勤交通を対象としたモビリティマネジメントの展開	<ul style="list-style-type: none"> ・商工、観光関係団体等で構成するJR関西本線利用促進と電化を進める会とともに、国際交流フェスタにおいて啓発物品を配布し利用促進を図った。 ・JR関西本線利用促進と電化を進める会による「JR関西本線団体利用促進補助金」については、令和6年度は、延べ7団体に対して、交付額総計7,818円の補助を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種助成・補助制度については、今後も利用促進及びマイルール意識醸成の観点から、積極的なPRを行っている。 ・また、公共交通利用促進に関する情報発信や啓発に努めるとともに、イベント開催等の情報収集を積極的に行っていく。

		<ul style="list-style-type: none"> ・10月～12月を公共交通利用促進期間と設定し、通勤・出張時における公共交通機関の利用について、通勤モデルダイヤの提示やパークアンドライド駐車場の紹介を行いながら、市役所各部署宛て協力依頼を行った。 ・利用促進期間にあわせ、JR 佐那具駅前の市営駐車場の無料開放を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組を企業等民間団体や市民全体にまで拡げていく必要がある。 ・市職員が率先垂範して実行できるように、各自の通勤モデルパターンを示すなど、具体的な働きかけをさらに強化しつつ、引き続き実施する。
23	広報誌・動画による情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・伊賀鉄道に係る話題や、公共交通利用促進を図る内容等を、偶数月に広報いがに掲載した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集を行いながら、積極的な情報提供を行っていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・広報いが等にてイベント情報を発信した。 ・伊賀線まつり2024やいがてつマルシェの開催チラシを伊賀鉄道(株)と連携し、市内幼稚園、保育所(園)、小学校へ配布した。 ・伊賀線まつり2024やいがてつマルシェのポスターを鉄道他社・他市でも掲示していただいた。 ・沿線のイベント開催情報や各種オーナー等の告知を、伊賀鉄道 SNS にて発信した。 ・伊賀線活性化協議会では、加盟団体に向け、伊賀線に関する話題をメルマガ形式で毎月発信。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集を行いながら、積極的な情報提供を行っていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・行政情報番組にて、通学定期券購入費助成制度や公共交通利用促進期間の周知などを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な機会を捕らえ、情報発信を行っていく。
24	公共交通の担い手担保	<ul style="list-style-type: none"> ・伊賀鉄道で自社採用社員を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携して、人材確保に努めていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・バス車内に運転手募集広告の掲示を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携して、運転手の確保に努めていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・運転手の人数や配置等、現状に配慮したバスの運行により、運用の最適化を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携して、取組を進めていく。

1-4 数値目標の達成状況

現計画では基本方針に基づいた目標ごとに、達成すべき数値目標を設定している。数値目標の評価指標及び、目標値は以下のとおりである。

基本方針1については、コロナウイルスの影響もあり、全ての項目で未達成でした。しかしながら、コロナ以降は回復傾向がみられるため、引き続き、ネットワークの形成に向けて取組を進めてまいります。

基本方針2については、「時刻表や乗り継ぎ案内に対する満足度」及び「乗継利便性に対する満足度」の項目について、達成しており、公共交通サービスが充実したと感じる方が増加したと考えられます。一方で、公共交通を利用した外出は未達成であり、今後は、利用者を増加させる取組が重要となってきます。

基本方針3については、市民の公共交通の満足度」及び、「市民の公共交通の利用割合」は目標を達成している一方で、「市民の公共交通の参画度」は未達成となっています。今後は、公共交通をみんなで支える意識醸成が重要となってきます。

表 1.2 伊賀市地域公共交通計画の数値目標と達成状況

	目標	評価指標	策定時	現況値 (2024)	目標値 (2026)	達成/ 未達成
生活の質を高める地域公共交通ネットワークの形成 市民・利用者の	公共交通軸の伊賀鉄道の利用者数の増加	伊賀鉄道の年間利用数	1,729,625人/年※1	1,163,669人/年	1,568,000人/年	未達成
	公共交通軸・補完交通のバスの利用者数の維持	バスの年間利用数	503,269人/年※1	358,905人/年	503,000人/年	未達成
	街の拠点と居住地を結ぶ公共交通ネットワークの構築	広域拠点・地域拠点のバス停までアクセス可能な人口割合	73.7%※2	74.8%	80%	未達成
	都市部への通勤・通学環境の充実による市外への転出者数の抑制	市外への転出者数	2,370人/年※3	2,386人/年	2,200人/年	未達成
誰もが利用しやすい、使いたくなるような地域公共交通サービスの充実	利用しやすさの向上に向けた路線・乗換案内の充実	時刻表や乗り継ぎ案内に対する満足度	73.5%※2	83.7%	80%	達成
	乗り継ぎしやすさの向上に向けた乗継利便の充実	乗継利便性に対する満足度	46.7%	61.4%	60%	達成
	地域公共交通を利用したお出かけの増加	公共交通を利用した外出回数	5.4回/月※2	2.83回/月	現況値以上	未達成
一緒に考え、次世代へつないでいく持続可能な仕組みづくり	地域公共交通に対する市民の参画度の向上	市民の公共交通への参画度	38.1%※2	16.5%	45%	未達成
	地域公共交通に対する市民の満足度の向上	市民の公共交通の満足度	20.0%※2	26%	25%	達成
	市民の地域公共交通の利用割合の増加	市民の公共交通の利用割合	32.6%※1	44.1%	40%	達成
	地域公共交通がもたらすクロスセクター効果の維持	クロスセクター効果	1.5億円※1		現況値の維持	

※1…2019年の値

※2…2020年の値

※3…2015～2019年の平均値

(1) 基本方針1:市民・利用者の生活の質を高める地域公共交通ネットワークの形成

① 目標①:公共交通軸の伊賀鉄道の利用者数の増加

現計画での目標値は、1,568,000人/年で、2024年の利用者は1,163,669人/年でした。計画策定時からの推移をみると、コロナウイルスの流行により、2020～2021にかけて、利用者数が低下していることがわかります。コロナ後には、コロナ禍に比べて、利用者数が徐々に回復傾向にありますが、コロナ前の利用者数に戻っておらず、目標値も未達成です。

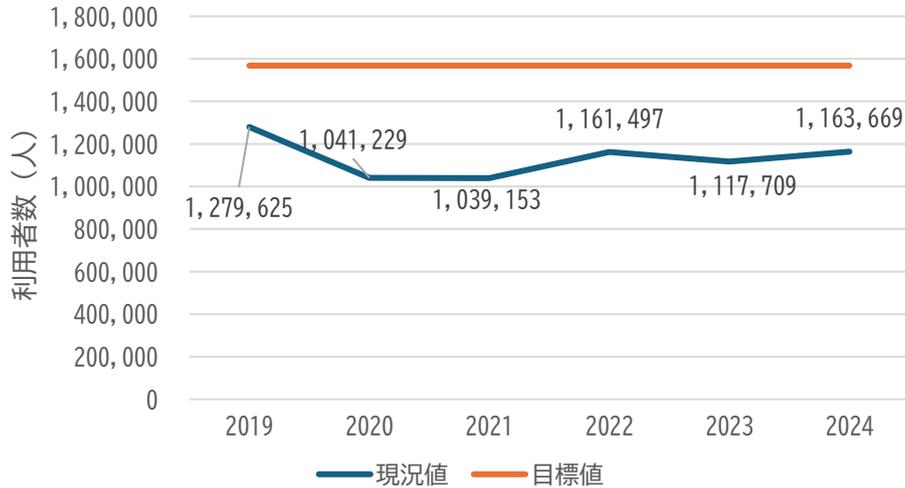


図 1-2 伊賀鉄道の利用者数の推移

② 目標②:公共交通軸・補完交通のバスの利用者数の維持

ここでのバス利用者数は、「営業路線バス・廃止代替バス・行政バス・コミュニティバス」の利用者数を集計しています。

現計画での目標値は、503,000人/年であり、2024年の現況値は、358,905人/年でした。コロナウイルスの流行により、2021年から、利用者数が低下しています。コロナ後には、コロナ禍に比べて、利用者数が微増していますが、コロナ前の利用者数に戻っておらず、目標値も未達成です。

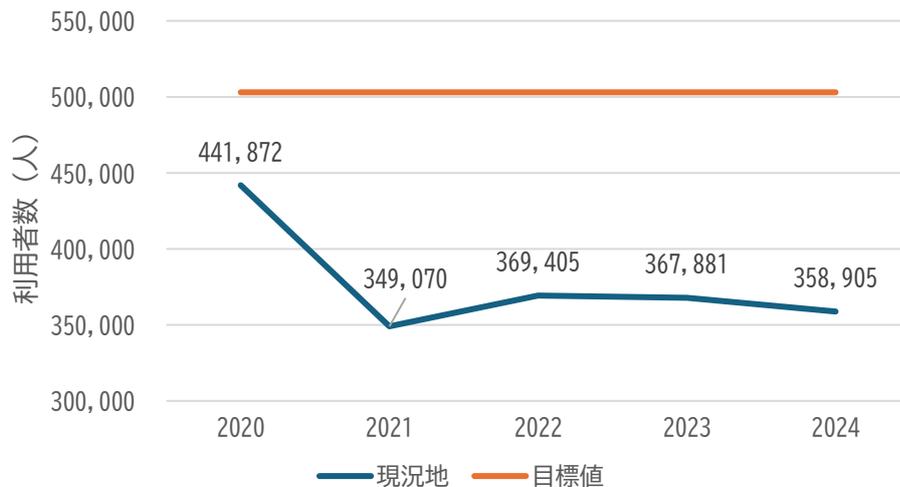
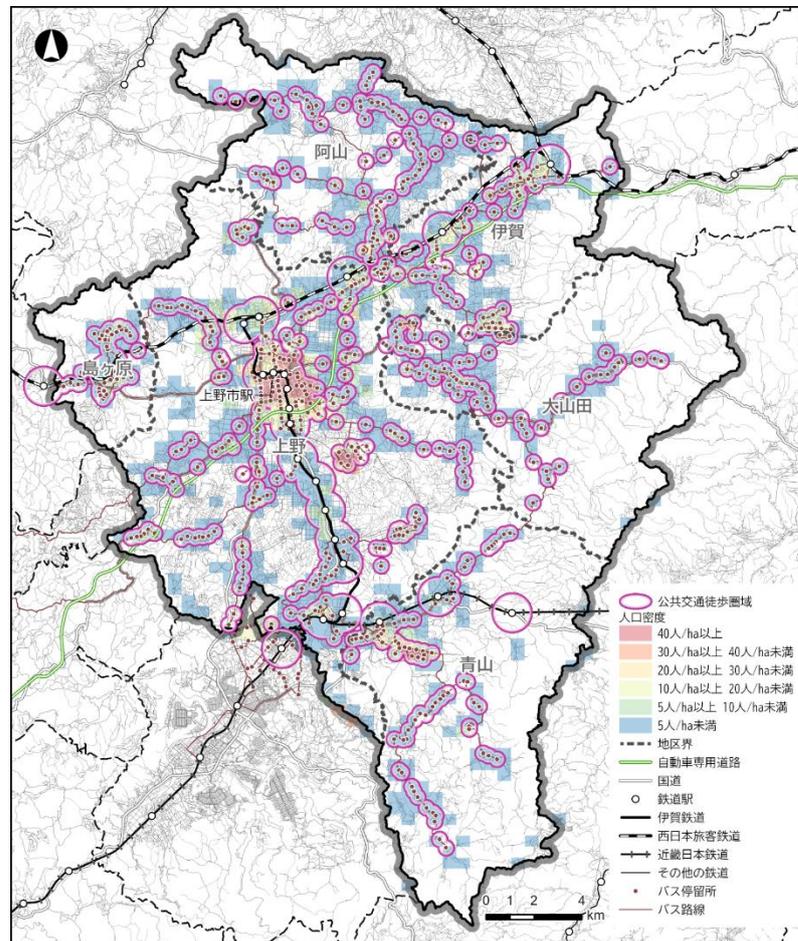


図 1-3 バスの利用者数の推移

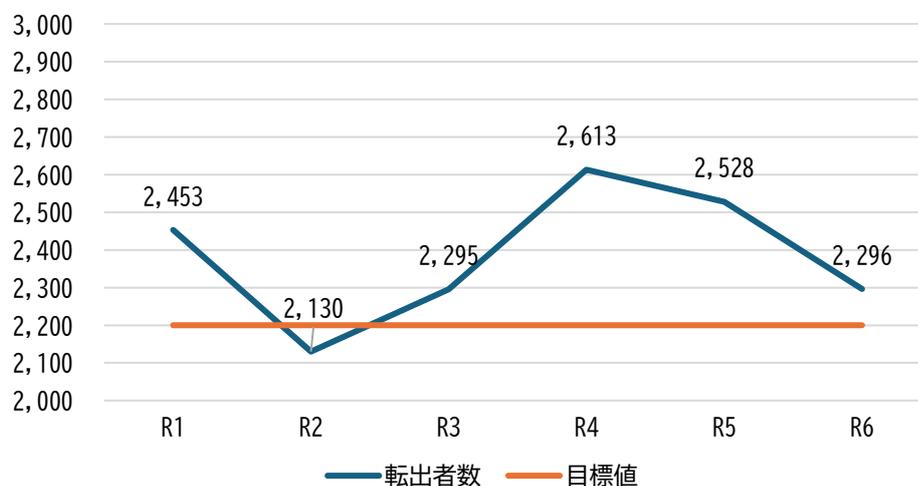
③ 目標③:街の拠点と居住地を結ぶ公共交通ネットワークの構築

現計画の目標値は 80%であり、2024 年の現況値は 74.8%でした。しかしながら、策定時(2020 年)は 73.5%であったことから、増加傾向であると言えます。引き続き公共交通ネットワークの構築に向けた取組を進めてまいります。



④ 目標④:都市部への通勤・通学環境の充実による市外への転出者数の抑制

現計画の目標値が1年あたり、2,200 人以下で、現況値は、1年あたり 2,386 人であったことから、目標は未達成でした。達成した年度は R2 年のみでしたが、直近 2 年は減少傾向にあることから、転出者数が抑制されつつあります。

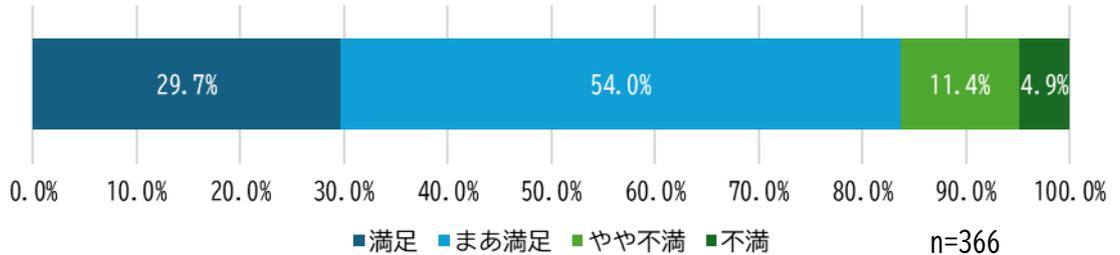


(2) 基本方針2:誰もが利用しやすく、使いたくなるような地域公共交通サービスの充実

① 目標⑤:利用しやすさの向上に向けた路線・乗換案内の充実

利用者アンケート調査の時刻表や乗り継ぎ案内に対する満足度（「満足」「やや満足」の合計）から算出しています。

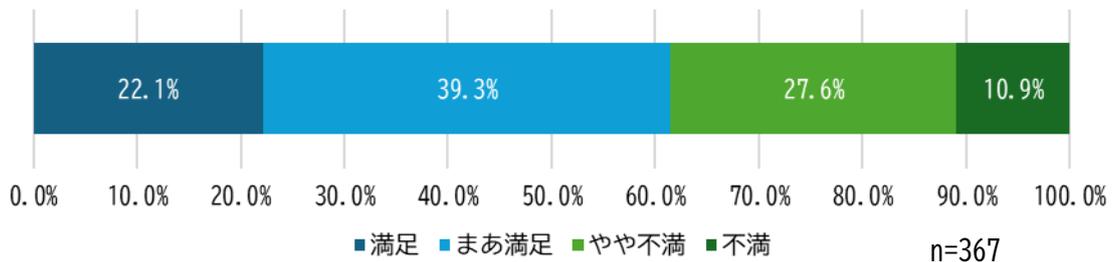
現計画の目標値は73.5%で、2025年の現況値が83.7%であったことから、目標を達成しました。



② 目標⑥:乗り継ぎしやすさの向上に向けた乗継利便の充実

利用者アンケート調査の乗り継ぎ利便性に対する満足度（「満足」「やや満足」の合計）から集計しています。

現計画の目標値では46.7%で、2025年の現況値が61.4%であったことから、目標を達成しました。



③ 目標⑦:地域公共交通を利用したお出かけの増加

市民アンケート調査における市民の外出頻度より、日々の「通勤」「通学」目的以外の「買物」「観光・娯楽」「通院」目的で、公共交通を利用した外出回数を示す。外出日数は、回答ごとに下表のように定め、合計外出日数を回答者で除すことで算出しています。

選択肢	ほぼ毎日	週に2~3回	週に1回	月に2~3回	月に1回	年に数回
日数(回/月)	20	10	4	2.5	1	0.5

現計画での目標値が現況値（5.4回/月）以上で、2.83回/月であったことから、目標は未達成でした。

(3) 基本方針3:一緒に考え、次世代へつないでいく持続可能な仕組みづくり

① 目標⑧:地域公共交通に対する市民の参画度の向上

まちづくりアンケート調査の「自家用車に過度に依存することなく、節度を持って交通手段を選んでいる」の回答結果（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計）から算出しています。

現計画での目標値は45%、2024年の現況値は16.5%であり、目標は未達成でした。コロナウイルスの影響で、参画度が減少したと考えられますが、コロナ後にも低下していることが確認できるため、参画度向上に向けた取組が必要です。

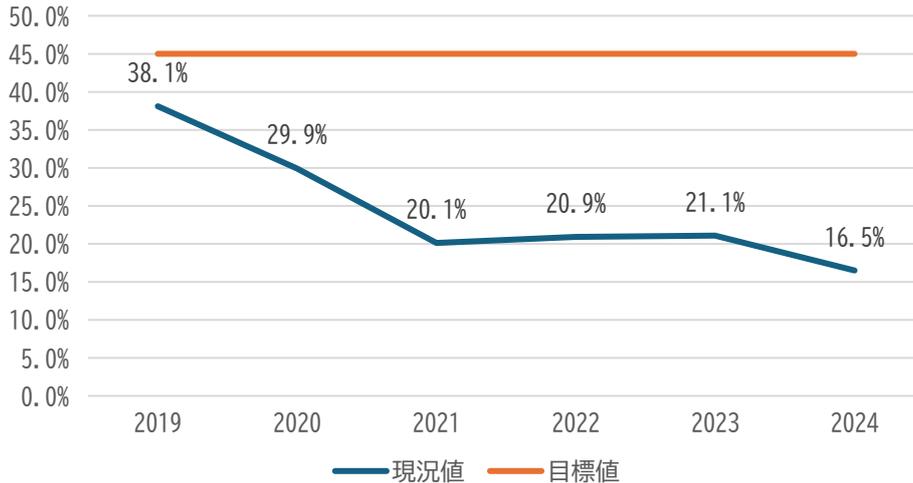


図 1-4 市民の公共交通への参画度の推移

② 目標⑨:地域公共交通に対する市民の満足度の向上

まちづくりアンケート調査の「身近なバスや鉄道に愛着を持ち、みんなで支えている」の回答結果（「満足」「どちらかといえば満足」の合計）から算出しています。

現計画での目標値は25%、2024年の現況値は26%であり、目標を達成しました。コロナ禍の2020年から2023年にかけて減少傾向でしたが、2024年に増加に転じています。

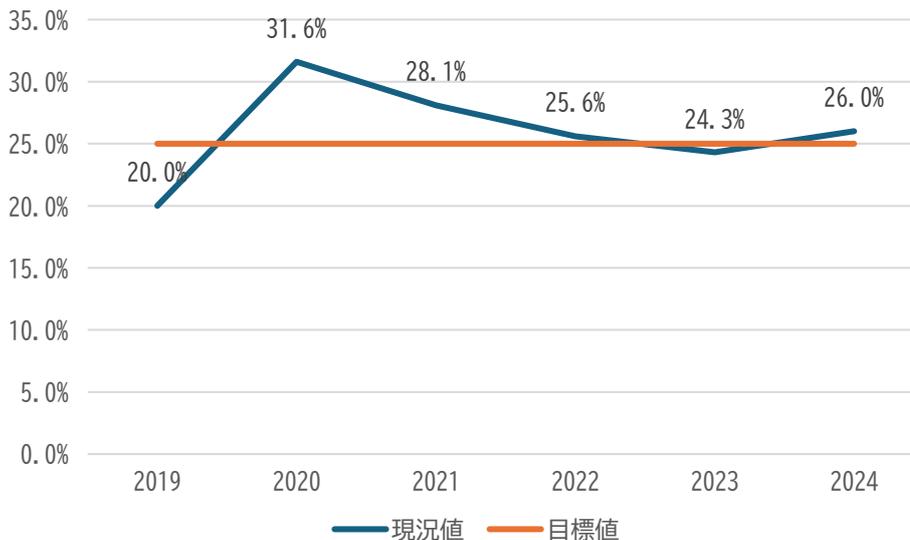


図 1-5 市民の公共交通への満足度の推移

③ 目標⑩:市民の地域公共交通の利用割合の増加

市民アンケート調査において、「1年間の市内の公共交通を利用する割合」の問に対して、「利用した」と回答した人の割合を算出しています。

現計画の目標値は、40%、2024年の現況値は、44.1%であり目標を達成しました。

④ 目標①:地域公共交通がもたらすクロスセクター効果の維持

※最新のガイドラインに則った値を算出し、現行計画との比較を行う（検討中）

第2章 上位関連計画の整理

本計画を策定するにあたり、整合及び連携を図るべき上位・関連計画について整理しました。また、市界を跨ぐネットワーク形成について、周辺市町村と連携を図りながら講じていく必要があるため、周辺市町村の地域公共交通計画についても整理します。

表 2.1 上位・関連計画整理のまとめ (1/2)

<p>伊賀圏域 マスタープラン (三重県)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 都市施設整備の方針として以下の内容が示されています。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 整備が進むリニア中央新幹線や高速バス等の広域ネットワーク、それらに接続する公共交通を含めた総合的な交通体系の構築を進めます ・ 鉄道駅やバス停等の交通結節点および周辺整備等を進め、公共交通の利用促進を図ります ・ 交通結節点となる拠点周辺への居住の誘導を進め、持続可能な公共交通を維持します
<p>三重県 地域公共交通計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「県民の多様なニーズに対応した、持続可能な地域交通の実現」をめざす姿とし、以下の3つの基本方針と施策が示されています。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本方針1：日常を支える地域内交通の維持・確保 <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域内交通の課題解決に向けた支援 2. 交通不便地域における移動手段の確保 3. 地域を支える二次交通の充実と多様な輸送資源の活用 ・ 基本方針2：広域ネットワークの構築・活性化 <ol style="list-style-type: none"> 1. 鉄道の維持・確保 2. 地域間幹線バスの維持・確保 3. 広域航路の維持・確保 4. 交通結節点での円滑な乗り継ぎの推進 5. 観光施策との関係 ・ 基本方針3：地域公共交通を支え、発展させる環境整備 <ol style="list-style-type: none"> 1. 誰もが公共交通を利用しやすい環境の整備 2. 公共交通の担い手の確保 3. 新技術の活用による課題の解決、付加価値の向上
<p>第3次伊賀市 総合計画/ 伊賀市まち・ひと・ しごと総合戦略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「身近なバスや鉄道に愛着を持ち、みんなで支える」が公共交通に関するめざす姿として示されています。 ○ 総合的な公共交通ネットワークの形成、持続可能なバス交通の運行体系の構築、鉄道路線の維持、伊賀鉄道の運営安定化などに取り組む方針が示されています。
<p>伊賀市都市計画 マスタープラン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「伊賀流多核連携都市」を実現するための公共交通施策として、鉄道、バス、その他の移動手段についての施策が示されています。 ○ 鉄道については、接続改善等に向けた事業者への働きかけ、伊賀鉄道の利用促進、パークアンドライドの推進などが示されています。 ○ バスについては、高速バスの維持、利便性向上に向けた環境改善、路線バス以外の交通導入の検討について示されています。 ○ その他の移動手段については、スクールバスの効率的な運行や、タクシ-の維持や利用促進について示されています。
<p>伊賀市立地適正化 計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「人口減少社会でも住みよさが実感でき、郷土に誇りが持てる都市づくり」を都市づくりの方針として掲げています。 ○ 居住誘導のための誘導施策として、公共交通拠点を含めた歩行空間整備やバリアフリー化、交通結節点の整備、居住誘導区域における公共交通利便性野向上、伊賀鉄道の新駅開設、交通弱者への支援などが示されています。

表 2.2 上位・関連計画整理のまとめ (2/2)

<p>伊賀市の適正な土地利用に関する条例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地区の特性にあった用途の適正化を図る条例です ○ 公共交通のアクセスポイントに「広域的拠点区域」を、広域的拠点へのネットワークの拠点となる区域及び公共交通の拠点で、公共交通を活用した居住誘導を進める区域に「地域拠点等の拠点区域」を設定しています。
<p>伊賀市環境基本計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 温室効果ガス削減の実現のために、自家用車の利用機会を減らし、公共交通利用促進に係る啓発を行うことを示しています。
<p>伊賀市地球温暖化対策実行計画 (事務事業編)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 伊賀市の職員の日常的な取組として、移動の際には公共交通機関を積極的に利用することが示されています。
<p>伊賀市観光振興ビジョン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「地域熱量人口の拡大」、「交流・関係人口の拡大」、「観光・まちブランド向上」を取組方針として掲げています。 ○ 大都市圏からの鉄道が整備されていることや、2 空港からのアクセス性など、公共交通アクセスについての強みが示されています。
<p>伊賀市国土強靱化地域計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本目標のひとつとして、「市及び地域重要な機能が致命的な障害を受けず維持されること」を掲げています。 ○ 施策として、輸送機関の代替性の確保や、鉄道・路線バス・準基幹バス・地域アクセスバス・タクシーなどが一体的に機能する公共交通ネットワークを形成することにより、輸送機関を確保することが示されています。
<p>第4次伊賀市地域福祉計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ひとりひとりが支え合い つながりあいながら、いきいきと暮らせるまちづくり」を基本理念に掲げています。 ○ 地域ネットワークの形成や、公共交通サービスの充実、交通手段の総動員、利用促進に向けた機運醸成、関係者の連携、移動に困難が生じて居る人の支援などが施策として示されています。

表 2.3 周辺市町村及び県の地域公共交通計画のまとめ

<p>第2次津市 地域公共交通網 形成計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「広域移動の確保」を目標とし、鉄道の利便性向上に関する事業者への要請を事業のひとつとしています。
<p>名張市 地域公共交通計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「集約連携型のまちづくりと連携し、人が交わり地域を支える地域公共交通ネットワークづくり」を基本方針に掲げ、事業内容として、広域幹線（鉄道）及び広域準幹線（路線バス）の継続運行に取り組むことを示しています。
<p>亀山市 地域公共交通計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「持続可能な地域公共交通の実現に向けた、地域と共に考える利用促進策の展開」を基本方針に掲げています。 ○ その施策のひとつとして、鉄道の利便性向上の要請や近隣自治体との広域関係による公共交通利用促進に取り組むことを示しています。
<p>甲賀市 地域公共交通計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本方針のひとつである「広域幹線網の利便性の確保と利用促進」の施策として、JR草津線の利用促進と利便性向上が示されています。 ○ また、基本方針「持続可能な仕組み作り」の施策として、関連する団体や関係機関との連携推進に取り組むことが示されています。
<p>奈良県 地域公共交通計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 山添村が上野市駅を結ぶコミュニティバスを運行していますが、休日運行がないことを課題にあげています。 ○ また、京都（笠置駅）、三重（上野市駅）との広報連携の強化についても課題認識が示されています。